

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972100386		
法人名	社会福祉法人ふるさと自然村		
事業所名	グループホームかがみ のぎく		
所在地	高知県香南市香我美町岸本328-39		
自己評価作成日	令和 5 年 9 月 25 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が、生まれ育った地域で人と触れ合いながら日常生活を継続出来るように、また少人数でゆったりと生活していく中で、自分の出来ることや役割を思い出し、自分らしく生活を送れるよう支援している。
健康管理を徹底し、利用者が病気にならず健康で生活できるよう支援している。
適切な睡眠、食事、運動ができ、規則正しく生活できるよう支援している。
入居者一人ひとりが持つ能力を発揮して楽しく生活できるよう支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3972100386-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 10 月 5 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1階の管理者の目標は【一日一笑】とし、フロア全員の利用者との挨拶を大切にしている。出勤時間が遅い時に、「おはよう」と声を掛けたら「今日はおそようだよ」と利用者からツッコミが入り、フロア全体が和んだ。2階の管理者の目標は、身体機能の維持向上で、棟内歩行や風船バレー、余暇時間には、手先を動かすようにしている。棟内歩行をしている利用者からは、「歩いていると身体の調子が良くなるのよ」との声が聞けた。地域との交流が薄くならないように、駐車場が少し離れた場所にあることを利用して、施設に向かう途中で地域の方と挨拶を交わし、「私は、かがみの職員です。遊びに来て下さい。」と声をかけたら、野菜の差し入れを頂いた。施設の食事は、3食手作りで、栄養【バランス】や【色彩】を大切にし、【食器】にも気を遣い、【見た目】でも楽しめるように工夫している。朝はパン食がメインだが、ジャムパン、アンパン、クリームパンなどを提供し、利用者が毎日飽きないように変化をつけている。個別の聞き取りでは、管理者は職員に、職員は利用者、利用者は職員に助けられていると感謝の言葉が互いから聞けた。一人一人に居場所や役割があり、【我が家】のようだった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が話し合い理念を作り、ユニットに掲示している。職員ミーティングや申し送り時等に理念の確認を行い、ケアの向上につなげている。	理念は、各ユニットの玄関口に掲示していて、ミーティングや申し送り時に理念の確認をしている。理念にある「我が家」を目指し、管理者は一日一笑や毎日の挨拶を大切にしている。利用者から相談ごとがあった際には、居室で話をするくらい、ここが我が家となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であり、ボランティアの受け入れは中止しているが、近隣の訪問美容の招聘は続けており、防災訓練は隣接の施設と合同で行うなど、数少ない地域交流を図っている。	近隣住民の方とは、散歩時に会った際に挨拶を交わす関係ができていて、野菜の差し入れを頂いたこともある。顔馴染みの訪問美容師が必要時に来られ、利用者や世間話で盛り上がることもある。災害時に備えて、隣接する他施設との連携もできている。	地域の関わりを今まで以上に深めてみてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行われる認知症関係の研修や講演会等に参加した際、参加者の方に認知症や認知症ケアについての話をしている。現在はコロナ禍のため集会参加は難しい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナ禍のため開催を中止していたが、R5年7月21日に開催。今後開催時には利用者状況や事業所の運営報告を行い、参加者の意見を職員間で共有し、サービス向上に向けた取り組みを行っていく。	今年7月から対面で実施することができた。家族、利用者、包括支援センター、各ユニットの管理者が参加した。入居者情報、勉強会、職員の資格状況、感染予防対策、ヒアリングの報告を行った。家族からは、多くの意見が集まり、次の会議に向けて活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは、事故報告時、認定更新の申請時や疑問点がある時などに随時相談、指導を受けている。	2階の管理者が窓口となっている。何かあれば定期的に、介護保険課や福祉事務所へ足を運んでいるので、face to face の関係ができていて、ケアプランの期間・内容については、電話にて相談している。役場の方はいつも親切・丁寧な対応してくれるので助かっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化検討委員会を定期的に開催し、研修も定期的に行い、職員が正しい知識を持ちケアに取り組めるよう指導している。	研修や勉強会を開催し、テストをすることもある。身体拘束指針の読み合わせしたり、拘束に関する事例を挙げたりして、学びを深めている。その際に、基本的なケアについても再確認ができた。スピーチロックにならないように、時間を明確に伝え、何かあれば管理者が個別に指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や定期的に内部研修を実施し虐待防止に関する知識を高め、防止に努めている。不適切ケアをまとめた自己点検表を使って定期的に自己評価させ、自己啓発できるように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がおり、職員間でパンフレットを閲覧したり、また随時説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分に時間を取って説明し、疑問に対して返答している。改訂の際にも説明を行い、理解・納得の上で同意をいただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族からの意見、要望については事業所に設置しているご意見箱や直接口頭にて収集している。意見、要望があった時は職員間で話し合い、ご家族に説明し、運営に反映させている。外部者への公表については意見、要望の内容を施設内に掲示するようにしている。	家族から、利用者の日頃の様子や表情がみたいという声を頂き、日常生活の場面を写真に撮り、かがみ便りでお知らせしたら、大好評だった。面会や電話で意見を聞き取ることが多く、直接管理者に相談事が集まってくる。	今でも十分にできていますが、家族に対して、生活が見えるような情報をさらに提供してみたいかがでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員一人一人とコミュニケーションを取って意見や要望を聴き、検討の上、事業所の運営に反映させている。また直接法人へ意見が言えるよう、職員用の意見箱も設置している。	業務に関する相談は管理者に集まってくるので、すぐに解決できるように助言・指導をしている。引き出しを多く持てるように配慮し、職員同士で意見を出し合ったり、成功例を共有したりしている。いつも職員には助けられていると管理者は感謝の気持ちを述べていた。また、職員は利用者ファーストの精神に徹している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格や能力に応じて職種別に職員等級が設定されており、人事考課により昇給・賞与に反映している。適宜、個別面接を実施することで個々に応じて課題や目標設定を行い、業務の中で役割が持て、本人の向上心に繋げることができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人内研修の予定情報を職員に伝え、研修への参加を促している。事業所内でも毎月研修会を行い、随時OJTも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会等に参加し交流の機会を持ち、他の施設での実践を学び、サービスの向上に繋がる良い取り組みは積極的に取り入れるようにしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学や面談を行い、本人との会話の中から不安なことや要望を探り、安心した生活が送れるよう配慮することに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学や面談を行い、今の生活での家族の不安なことや困っていること、要望などを聞き取り、事業所としてどのようなことができるか説明し、安心して入居してもらえるような関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に相談内容を詳しく聞き、その緊急性や必要とするサービスの種別を判断し、本人や家族の意向も踏まえて必要なサービスの利用に繋げられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する者として、掃除、洗濯、炊事など家事をできるだけ一緒に行い、職員と利用者が協力し支え合える関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から本人の近況報告を随時行い、暮らしぶりを職員と共有し、本人と家族の繋がりを維持しながら本人を支えていける協力関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の美容室の訪問美容を定期的に招いている。コロナ5類引き下げに伴い、面会制限を解除している。	面会は、換気に注意して、玄関で対面式で実施している。受診時には、家族と顔を合わせる機会もあり、昔住んでいた場所を通ることで、馴染みの場所を懐かしんでいる。妹が訪問し、「元気にしちゃったかねー」と言葉掛け、久々の再会にお互いが満面の笑みを浮かべていた	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に応じて席の配置し、お互いに話しやすい環境作りをしている。職員が会話の仲介役になったり、会話が難しい方には個別に援助するなど、関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移る時は、支援経過や生活歴等の情報提供を行っている。利用終了後も、面会に行ったり、家族に近況を伺ったり、相談に応じたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族から詳しく情報収集するとともに、グループホーム生活の中で本人から随時話を聞き、情報を集めて意向の把握に努めている。	入居時にセンター方式という様式を活用し、より重要な情報を得られるように工夫している。家族からの情報を大切にしているので、聞き取りの時間も多く取っている。利用者の日々の生活からも把握できるようにしている。気づいたことがあれば伝達ノートに記載することで情報の共有ができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族、担当ケアマネジャー等からできるだけ多くの情報を収集するようにしている。また入居後も随時、本人、家族から聞き取り、本人の全体像を把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援時に気づいたことや本人の変化については随時記録に残し、申し送りを行い、全職員が周知できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの意向を尊重し、具体的な援助内容について、看護師も含め職員全体で検討しながら介護計画を作成している。実施している援助内容については実施状況を毎日モニタリングを行っている。	入居時に暫定プランを作成し、1ヶ月、6ヶ月毎で、何かあればその都度見直しをしている。モニタリングは毎日行い、毎月の達成率を出すことで、次のケアプランに活かしている。ケアプランは、計画作成担当者が総括し、家族の意見を聞き、計画案を作成して、職員全員で協議している。利用者との関わりを大切にしてい、寄り添ったプランとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や個別援助の中で捉えた気づきなどを記録し、職員全員が情報共有している。それらの情報を介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の事情に応じて通院や買い物の支援など柔軟に対応している。月2回の往診を提供できる体制を取っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容院に訪問を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認をし事業所の協力医療機関についての説明を行い、入居後どのようなかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。協力医療機関とは月2回の往診を受けられる体制をとっており、協力医療機関への受診支援もしている。	協力医が隣接しているため、素早い対応ができています。ドクターとは、何でも相談できる関係ができていて、会えば利用者は笑顔になり、管理者も絶大な信頼を寄せている。往診は月2回で、外部受診の方は、家族が連れて行く。薬が変更した場合は、必ず管理者が連絡を入れるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護師不在時も、利用者の状態に変化があった時には随時連絡し適切な支援を行っている。介護計画作成時にも看護師の意見を聴取し参考にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には入院先に情報提供を行っている。また、早期退院と施設生活の早期再開を目指し、入院先の地域連携室と随時連絡を取り合いながら関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や看取りについての説明を行っている。入居後は身体状況の変化に応じてご家族と話し合い、支援方針、内容についてはできる限り意向に沿った内容となるよう取り組んでいる。	今年看取りが行われた。その際には、職員や利用者の方々に温かく見守られて無事に最期を迎えることができた。管理者は職員が不安にならないように「周りを頼っていいよ」と言葉かけをして、安心感を与えた。告別式にも職員が参列し、家族からは「ありがとう」の感謝の言葉を頂いた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実技を含む内部、外部研修を受け、急変時や事故発生時に速やかに的確に対応できるよう学習している。緊急対応マニュアル、緊急時連絡基準を作成し、全職員に周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練2回、地震・津波避難訓練3回、風水害避難訓練1回を実施している。火災訓練は日中想定と夜間想定で実施している。避難訓練は隣接施設と合同で実施している。	年6回災害対策をしている。災害対策に強い職員がいて、台風の際に3～4時間掛けて、ビニールシートで施設を覆い、雨風を防いだこともある。備蓄は、2階の畳のスペースに水やレトルト食品を保管している。期限間近の物は食し、利用者が食べにくいものは入れ替えるようにしている。また、防災頭巾が居室に常備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常のケアの中で入居者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した声かけをするなど、入居者の立場に立ってケアを行うよう心がけている。	呼称の基本は苗字に「さん」付けだが、家族や本人が希望する呼び方で呼ぶこともある。身体拘束委員会にて、法令順守についても取り上げている。利用者が不穏にならないように、プライバシーに配慮して、名前ではなく部屋番号で呼ぶようにしている。トイレ誘導や失敗時には、耳元で小声で囁くように言葉かけをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意思表示しやすいように心掛けている。小さなことでも自己決定できるような言葉掛けや場面作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人の思いを尊重し、入居者のペースに合わせた生活を送れるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる限り自分で衣類を選んでもらっている。自分で決定が難しい方には職員と一緒に考えて本人の意向に沿う支援を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理時には献立を相談したり、調理方法についてアドバイスを受けたりしている。食後には食器洗いやトレイ拭き、台拭きを手伝ってもらっている。	3食手作りが売りで、【バランス】【見た目】【食器】【色彩】を大切にしている。食材が業者から届き、冷蔵庫と相談をして、その日のメニューを考え、各ユニットの職員が調理している。朝食はパンがメインだが、ジャムパン、あんぱん、クリームパンなど種類を変えて、利用者を飽きさせないように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量をチェックし、食摂が悪い方には栄養補助食品等の嗜好品を提供している。水分を飲みたがらない方には、好きな飲み物の提供回数を多くしたりと工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、必要に応じて職員が支援を行っている。義歯使用者は夜間義歯を預かり洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合った排泄ケアが行えるよう排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努め、排尿間隔を見ながら個別にトイレ誘導等を行うことでトイレでの排泄が継続できるよう支援している。	各階トイレは居室に4ヶ所、共同が2ヶ所ある。排泄チェック表を活用した結果、声掛けのタイミングがわかり、失敗が減っただけでなく、自分から「トイレへ行きたい」と申し出るようになった。布パンツで生活している方や夜間のみポータブルトイレを使用している方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事の中で食物繊維を多く含む食材を使用したり、十分な水分摂取と適度な運動を心がけるようにしている。便秘傾向の方にはヨーグルトやヤクルト等の乳酸菌飲料を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる限り希望に沿って入浴できるよう努めている。入浴拒否がある入居者には無理強いないで時間を置いて声掛けをするなど、その時の状況により対応している。	週2～3回の提供。誘導の際には、「ニューヨークへいこう」「今日は温泉が無料なんよ」と言葉掛けをしている。拒否された際には、人や時間を変えて声掛けをし、それでもダメな場合は、清拭をして清潔感を保っている。季節湯としてゆず湯の提供もあり、入浴後の保湿ケアも行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ日中の活動を促して、生活リズムを整え安眠につながるようにしている。その日の体調や本人の希望を考慮して休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方薬の内容が分かるようにファイリングし、いつでもすぐに確認できるようにしている。副作用や薬に変更があった時には職員連絡ノートや記録を使って全職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や作業など得意なこと、興味のあることは自分で行ってもらい、日々の生活の中で役割や楽しみが見出せるな場面作りを行い支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ5類引き下げになっているが、外出については必要時以外は取りやめている。かかりつけ医への受診時などが家族と共に外出できる機会となっている。	施設内では、利用者の体調により、棟内歩行の周数を決めている。洗濯物干しやゴミ捨てが日課となっている。中庭に花を植えて、咲いた花を鑑賞したり、ティータイムを楽しんだりした。外出では、春に桜、夏にはアジサイを観に行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所に立替金制度があり、ご家族の同意を得て買い物ができる体制を取っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて日常的に電話したり、手紙を出したりできるように支援している。電話時には他者に聞こえないよう場所の配慮をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内は茶系統の色で統一し、刺激のない落ち着いた環境になっている。季節感のある飾りつけを行い、明るく楽しい雰囲気となるよう工夫している。	1階は、花の好きな職員がいて、たくさんの季節の造花を色とりどりに飾っていた。2階は、季節を感じる手作りの作品が並んでいた。TVの前のソファで寛いだり、塗り絵、新聞折り、トレイ拭きなどの自分の好きなことをして過ごしている方もいる。評価中は、利用者同士の会話が聞こえてきて評価員を後押ししてくれた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りで過ごしたい方や気の合う方同士で過ごしたい方には、玄関口や廊下など集団とは少し離れた場所で過ごすことができるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や装飾品、家族の写真、思い出の物品等を自宅から持ってきてもらい、居心地よく過ごせるような環境作りに努めている。	洗面台、ベッド、押し入れ、加湿器、エアコンが備え付けで、トイレ付きの部屋もある。職員の手作り防災頭巾が居室に常備されている。清掃が行き届き、広々とした空間だった。家族や孫の写真を飾ったり、手紙を大切に置いて、毎日読み返している方もいる。雑誌やTVを観てゆっくり過ごされる方もいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の生活スペースは同線上に障害物を置かないよう配慮し、安全に移動できるようにしている。トイレや自室の場所が分からない方については目印を付けたり、本人、家族の同意の上で居室の入り口に名前を表示する等の対応を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972100386		
法人名	社会福祉法人ふるさと自然村		
事業所名	グループホームかがみ すみれ		
所在地	高知県香南市香我美町岸本328-39		
自己評価作成日	令和 5 年 9 月 25 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が、生まれ育った地域で人と触れ合いながら日常生活を継続出来るように、また少人数でゆったりと生活していく中で、自分の出来ることや役割を思い出し、自分らしく生活を送れるよう支援している。
健康管理を徹底し、利用者が病気にならず健康で生活できるよう支援している。
適切な睡眠、食事、運動ができ、規則正しく生活できるよう支援している。
入居者一人ひとりが持つ能力を発揮して楽しく生活できるよう支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3972100386-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 10 月 5 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1階の管理者の目標は【一日一笑】とし、フロア全員の利用者との挨拶を大切にしている。出勤時間が遅い時に、「おはよう」と声を掛けたら「今日はおそようだよ」と利用者からツッコミが入り、フロア全体が和んだ。2階の管理者の目標は、身体機能の維持向上で、棟内歩行や風船バレー、余暇時間には、手先を動かすようにしている。棟内歩行をしている利用者からは、「歩いていると身体の調子が良くなるのよ」との声が聞けた。地域との交流が薄くならないように、駐車場が少し離れた場所にあることを利用して、施設に向かう途中に地域の方と挨拶を交わし、「私は、かがみの職員です。遊びに来て下さい。」と声をかけたら、野菜の差し入れを頂いた。施設の食事は、3食手作りで、栄養【バランス】や【色彩】を大切にし、【食器】にも気を遣い、【見た目】でも楽しめるように工夫している。朝はパン食がメインだが、ジャムパン、アンパン、クリームパンなどを提供し、利用者が毎日飽きないように変化をつけている。個別の聞き取りでは、管理者は職員に、職員は利用者、利用者は職員に助けられていると感謝の言葉が互いから聞けた。一人一人に居場所や役割があり、【我が家】のようだった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が話し合い理念を作り、ユニットに掲示している。職員ミーティングや申し送り時等に理念の確認を行い、ケアの向上につなげている。	理念は、各ユニットの玄関口に掲示していて、ミーティングや申し送り時に理念の確認をしている。理念にある「我が家」を目指し、管理者は一日一笑や毎日の挨拶を大切にしている。利用者から相談ごとがあった際には、居室で話をするくらい、ここが我が家となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であり、ボランティアの受け入れは中止しているが、近隣の訪問美容の招聘は続けており、防災訓練は隣接の施設と合同で行うなど、数少ない地域交流を図っている。	近隣住民の方とは、散歩時に会った際に挨拶を交わす関係ができていて、野菜の差し入れを頂いたこともある。顔馴染みの訪問美容師が必要時に来られ、利用者や世間話で盛り上がることもある。災害時に備えて、隣接する他施設との連携もできている。	地域の関わりを今まで以上に深めてみてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行われる認知症関係の研修や講演会等に参加した際、参加者の方に認知症や認知症ケアについての話をしている。現在はコロナ禍のため集会参加は難しい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナ禍のため開催を中止していたが、R5年7月21日に開催。今後開催時には利用者状況や事業所の運営報告を行い、参加者の意見を職員間で共有し、サービス向上に向けた取り組みを行っていく。	今年7月から対面で実施することができた。家族、利用者、包括支援センター、各ユニットの管理者が参加した。入居者情報、勉強会、職員の資格状況、感染予防対策、ヒアリングの報告を行った。家族からは、多くの意見が集まり、次の会議に向けて活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは、事故報告時、認定更新の申請時や疑問点がある時などに随時相談、指導を受けている。	2階の管理者が窓口となっている。何かあれば定期的に、介護保険課や福祉事務所へ足を運んでいるので、face to face の関係ができていて、ケアプランの期間・内容については、電話にて相談している。役場の方はいつも親切・丁寧な対応してくれるので助かっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化検討委員会を定期的に開催し、研修も定期的に行い、職員が正しい知識を持ちケアに取り組めるよう指導している。	研修や勉強会を開催し、テストをすることもある。身体拘束指針の読み合わせしたり、拘束に関する事例を挙げたりして、学びを深めている。その際に、基本的なケアについても再確認ができた。スピーチロックにならないように、時間を明確に伝え、何かあれば管理者が個別に指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や定期的に内部研修を実施し虐待防止に関する知識を高め、防止に努めている。不適切ケアをまとめた自己点検表を使って定期的に自己評価させ、自己啓発できるように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がおり、職員間でパンフレットを閲覧したり、また随時説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分に時間を取って説明し、疑問に対して返答している。改訂の際にも説明を行い、理解・納得の上で同意をいただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族からの意見、要望については事業所に設置しているご意見箱や直接口頭にて収集している。意見、要望があった時は職員間で話し合い、ご家族に説明し、運営に反映させている。外部者への公表については意見、要望の内容を施設内に掲示するようにしている。	家族から、利用者の日頃の様子や表情がみたいという声を頂き、日常生活の場面を写真に撮り、かがみ便りでお知らせしたら、大好評だった。面会や電話で意見を聞き取ることが多く、直接管理者に相談事が集まってくる。	今でも十分にできていますが、家族に対して、生活が見えるような情報をさらに提供してみたいかでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員一人一人とコミュニケーションを取って意見や要望を聴き、検討の上、事業所の運営に反映させている。また直接法人へ意見が言えるよう、職員用の意見箱も設置している。	業務に関する相談は管理者に集まってくるので、すぐに解決できるように助言・指導をしている。引き出しを多く持てるように配慮し、職員同士で意見を出し合ったり、成功例を共有したりしている。いつも職員には助けられていると管理者は感謝の気持ちを述べていた。また、職員は利用者ファーストの精神に徹している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格や能力に応じて職種別に職員等級が設定されており、人事考課により昇給・賞与に反映している。適宜、個別面接を実施することで個々に応じて課題や目標設定を行い、業務の中で役割が持て、本人の向上心に繋げることができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人内研修の予定情報を職員に伝え、研修への参加を促している。事業所内でも毎月研修会を行い、随時OJTも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会等に参加し交流の機会を持ち、他の施設での実践を学び、サービスの向上に繋がる良い取り組みは積極的に取り入れるようにしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学や面談を行い、本人との会話の中から不安なことや要望を探り、安心した生活が送れるよう配慮することに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学や面談を行い、今の生活での家族の不安なことや困っていること、要望などを聞き取り、事業所としてどのようなことができるか説明し、安心して入居してもらえるような関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に相談内容を詳しく聞き、その緊急性や必要とするサービスの種別を判断し、本人や家族の意向も踏まえて必要なサービスの利用に繋げられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する者として、掃除、洗濯、炊事など家事をできるだけ一緒に行い、職員と利用者が協力し支え合える関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から本人の近況報告を随時行い、暮らしぶりを職員と共有し、本人と家族の繋がりを維持しながら本人を支えていける協力関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の美容室の訪問美容を定期的に招いている。コロナ5類引き下げに伴い、面会制限を解除している。	面会は、換気に注意して、玄関で対面式で実施している。受診時には、家族と顔を合わせる機会もあり、昔住んでいた場所を通ることで、馴染みの場所を懐かしんでいる。妹が訪問し、「元気にしちゃったかねー」と言葉掛け、久々の再会にお互いが満面の笑みを浮かべていた	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に応じて席の配置し、お互いに話しやすい環境作りをしている。職員が会話の仲介役になったり、会話が難しい方には個別に援助するなど、関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移る時は、支援経過や生活歴等の情報提供を行っている。利用終了後も、面会に行ったり、家族に近況を伺ったり、相談に応じたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族から詳しく情報収集するとともに、グループホーム生活の中で本人から随時話を聞き、情報を集めて意向の把握に努めている。	入居時にセンター方式という様式を活用し、より重要な情報を得られるように工夫している。家族からの情報を大切にしているので、聞き取りの時間も多く取っている。利用者の日々の生活からも把握できるようにしている。気づいたことがあれば伝達ノートに記載することで情報の共有ができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族、担当ケアマネジャー等からできるだけ多くの情報を収集するようにしている。また入居後も随時、本人、家族から聞き取り、本人の全体像を把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援時に気づいたことや本人の変化については随時記録に残し、申し送りを行い、全職員が周知できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの意向を尊重し、具体的な援助内容について、看護師も含め職員全体で検討しながら介護計画を作成している。実施している援助内容については実施状況を毎日モニタリングを行っている。	入居時に暫定プランを作成し、1ヶ月、6ヶ月毎で、何かあればその都度見直しをしている。モニタリングは毎日行い、毎月の達成率を出すことで、次のケアプランに活かしている。ケアプランは、計画作成担当者が総括し、家族の意見を聞き、計画案を作成して、職員全員で協議している。利用者との関わりを大切にしてい、寄り添ったプランとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や個別援助の中で捉えた気づきなどを記録し、職員全員が情報共有している。それらの情報を介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の事情に応じて通院や買い物の支援など柔軟に対応している。月2回の往診を提供できる体制を取っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容院に訪問を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認をし事業所の協力医療機関についての説明を行い、入居後どのようなかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。協力医療機関とは月2回の往診を受けられる体制をとっており、協力医療機関への受診支援もしている。	協力医が隣接しているため、素早い対応ができています。ドクターとは、何でも相談できる関係ができていて、会えば利用者は笑顔になり、管理者も絶大な信頼を寄せている。往診は月2回で、外部受診の方は、家族が連れて行く。薬が変更した場合は、必ず管理者が連絡を入れるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護師不在時も、利用者の状態に変化があった時には随時連絡し適切な支援を行っている。介護計画作成時にも看護師の意見を聴取し参考にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には入院先に情報提供を行っている。また、早期退院と施設生活の早期再開を目指し、入院先の地域連携室と随時連絡を取り合いながら関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や看取りについての説明を行っている。入居後は身体状況の変化に応じてご家族と話し合い、支援方針、内容についてはできる限り意向に沿った内容となるよう取り組んでいる。	今年看取りが行われた。その際には、職員や利用者の方々に温かく見守られて無事に最期を迎えることができた。管理者は職員が不安にならないように「周りを頼っていいよ」と言葉かけをして、安心感を与えた。告別式にも職員が参列し、家族からは「ありがとう」の感謝の言葉を頂いた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実技を含む内部、外部研修を受け、急変時や事故発生時に速やかに的確に対応できるよう学習している。緊急対応マニュアル、緊急時連絡基準を作成し、全職員に周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練2回、地震・津波避難訓練3回、風水害避難訓練1回を実施している。火災訓練は日中想定と夜間想定で実施している。避難訓練は隣接施設と合同で実施している。	年6回災害対策をしている。災害対策に強い職員がいて、台風の際に3～4時間掛けて、ビニールシートで施設を覆い、雨風を防いだこともある。備蓄は、2階の量のスペースに水やレトルト食品を保管している。期限間近の物は食し、利用者が食べにくいものは入れ替えるようにしている。また、防災頭巾が居室に常備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常のケアの中で入居者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した声かけをするなど、入居者の立場に立ってケアを行うよう心がけている。	呼称の基本は苗字に「さん」付けだが、家族や本人が希望する呼び方で呼ぶこともある。身体拘束委員会にて、法令順守についても取り上げている。利用者が不穏にならないように、プライバシーに配慮して、名前ではなく部屋番号で呼ぶようにしている。トイレ誘導や失敗時には、耳元で小声で囁くように言葉かけをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意思表示しやすいように心掛けている。小さなことでも自己決定できるような言葉掛けや場面作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人の思いを尊重し、入居者のペースに合わせた生活を送れるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる限り自分で衣類を選んでもらっている。自分で決定が難しい方には職員と一緒に考えて本人の意向に沿う支援を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理時には献立を相談したり、調理方法についてアドバイスを受けたりしている。食後には食器洗いやトレイ拭き、台拭きを手伝ってもらっている。	3食手作りが売りで、【バランス】【見た目】【食器】【色彩】を大切にしている。食材が業者から届き、冷蔵庫と相談をして、その日のメニューを考え、各ユニットの職員が調理している。朝食はパンがメインだが、ジャムパン、あんぱん、クリームパンなど種類を変えて、利用者を飽きさせないように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量をチェックし、食摂が悪い方には栄養補助食品等の嗜好品を提供している。水分を飲みたがらない方には、好きな飲み物の提供回数を多くしたりと工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、必要に応じて職員が支援を行っている。義歯使用者は夜間義歯を預かり洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合った排泄ケアが行えるよう排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努め、排尿間隔を見ながら個別にトイレ誘導等を行うことでトイレでの排泄が継続できるよう支援している。	各階トイレは居室に4ヶ所、共同が2ヶ所ある。排泄チェック表を活用した結果、声掛けのタイミングがわかり、失敗が減っただけでなく、自分から「トイレへ行きたい」と申し出るようになった。布パンツで生活している方や夜間のみポータブルトイレを使用している方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事の中で食物繊維を多く含む食材を使用したり、十分な水分摂取と適度な運動を心がけるようにしている。便秘傾向の方にはヨーグルトやヤクルト等の乳酸菌飲料を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる限り希望に沿って入浴できるよう努めている。入浴拒否がある入居者には無理強いないで時間を置いて声掛けをするなど、その時の状況により対応している。	週2～3回の提供。誘導の際には、「ニューヨークへいこう」「今日は温泉が無料なんよ」と言葉掛けをしている。拒否された際には、人や時間を変えて声掛けをし、それでもダメな場合は、清拭をして清潔感を保っている。季節湯としてゆず湯の提供もあり、入浴後の保湿ケアも行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ日中の活動を促して、生活リズムを整え安眠につながるようにしている。その日の体調や本人の希望を考慮して休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方薬の内容が分かるようにファイリングし、いつでもすぐに確認できるようにしている。副作用や薬に変更があった時には職員連絡ノートや記録を使って全職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や作業など得意なこと、興味のあることは自分で行ってもらい、日々の生活の中で役割や楽しみが見出せるな場面作りを行い支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ5類引き下げになっているが、外出については必要時以外は取りやめている。かかりつけ医への受診時などが家族と共に外出できる機会となっている。	施設内では、利用者の体調により、棟内歩行の周数を決めている。洗濯物干しやゴミ捨てが日課となっている。中庭に花を植えて、咲いた花を鑑賞したり、ティータイムを楽しんだりした。外出では、春に桜、夏にはアジサイを観に行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所に立替金制度があり、ご家族の同意を得て買い物ができる体制を取っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて日常的に電話したり、手紙を出したりできるように支援している。電話時には他者に聞こえないよう場所の配慮をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内は茶系統の色で統一し、刺激のない落ち着いた環境になっている。季節感のある飾りつけを行い、明るく楽しい雰囲気となるよう工夫している。	1階は、花の好きな職員がいて、たくさんの季節の造花を色とりどりに飾っていた。2階は、季節を感じる手作りの作品が並んでいた。TVの前のソファで寛いだり、塗り絵、新聞折り、トレイ拭きなどの自分の好きなことをして過ごしている方もいる。評価中は、利用者同士の会話が聞こえてきて評価員を後押ししてくれた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りで過ごしたい方や気の合う方同士で過ごしたい方には、玄関口や廊下など集団とは少し離れた場所で過ごすことができるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や装飾品、家族の写真、思い出の物品等を自宅から持ってきてもらい、居心地よく過ごせるような環境作りに努めている。	洗面台、ベッド、押し入れ、加湿器、エアコンが備え付けで、トイレ付きの部屋もある。職員の手作り防災頭巾が居室に常備されている。清掃が行き届き、広々とした空間だった。家族や孫の写真を飾ったり、手紙を大切に置いて、毎日読み返している方もいる。雑誌やTVを観てゆっくり過ごされる方もいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の生活スペースは同線上に障害物を置かないよう配慮し、安全に移動できるようにしている。トイレや自室の場所が分からない方については目印を付けたり、本人、家族の同意の上で居室の入り口に名前を表示する等の対応を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない